

いのち輝く、東京ベイ。

Tokyo Bay Urayasu

東京ベイ・浦安市川医療センター

看護職員募集案内

Ichikawa Medical Center



TOKYO BAY
MEDICAL CENTER

医療を通じ地域と絆を育む 4つの役割

2009年に地域住民のための中核病院・急性期病院として開設し、2012年に新病院が完成した「東京ベイ・浦安市川医療センター」。
まだ歴史の浅い病院ですが、幅広い疾病とすべての年齢層の患者さんに寄り添いながら医療を通して地域の絆を育んでいく当院は、
救急医療、高齢者医療、周産期医療、小児医療を重点項目とし、この「4つの役割」の医療体制の充実を図っています。

救急医療

高齢者医療

周産期医療

小児医療

看護部
理念

地域の人々のライフサポーターとしての 使命を果たします。

私たちの考えるライフサポーターとは、疾病だけでなく「患者さん一人ひとりのライフステージ=ご本人とご家族の人生を見つめ、考え、寄り添える看護師」です。そのため、私たちはベテランから新人まで経験に関係なく意見交換し、時にはボトムアップで職場改善を続けています。自らの知識・技術を高めていけるキャリア支援もそのひとつ。ジェネラルな看護力を高め地域包括ケアを実践し、スペシャリティを追求しながらチーム医療の中核として活躍するなど、多様なキャリアを歩むことができる環境が整っています。看護師一人ひとりが輝きながら、全員の力で地域のニーズにお応えできる看護を実現していきましょう。



認定看護管理者
副センター長
看護部長

鈴木たまえ

病院
概要

WebでCheck!



東京ベイの経営母体 地域医療振興協会

公益社団法人 地域医療振興協会は、地域医療の確保と質の向上を目的に、
全国の医療施設の運営や医師の派遣・診療支援、総合医の養成などの事業に取り組んでいます。

へき地支援



公益社団法人
Med 地域医療振興協会
Japan Association for Development of Community Medicine

「いろいろな病院、状況で看護を体験し自分のスキルにしたい」そんな向上心も
地域医療振興協会の直営施設である当院なら、「へき地支援」で経験できます。

本人の希望する場所で自分の力を試し、新しい発見を

- 理想の看護師を目指すキャリアデザインのひとつ
地域医療振興協会は「医師が、看護師が、医療スタッフが不足している」そんな切実な悩みを抱える全国の病院・診療所等の施設に、スタッフを派遣し支援しています。協会の直営施設である当院は「へき地支援は、自分の目指す看護師像を探究し、キャリアデザインする選択肢のひとつ」と捉え希望者を募集。当院以外の様々な職場環境も体験し、スキルアップできるようにしています。
- 全国の病院と連携しスタッフの希望を実現
北海道から沖縄まで、地域医療振興協会の運営施設は、全国に80を超える関連施設。そのネットワークを活かし、各病院や診療所・介護施設と当院スタッフの希望をマッチング。現場でスムーズに順応できるように支援しています。

へき地
支援

沖縄県の公立久米島病院でへき地支援 看護のあり方を学べる良い機会でした。

私は、学生時代に沖縄で看護を学び、当時、島嶼地域看護論で「住み慣れた島でどう最期を過ごすか」などを学んだ記憶があります。十数年経ってそれを実際に目の当たりにし、改めて学ぶことが多くありました。生後数日から100歳代の方まで、ひとつの医療施設で対応するために、幅広い知識と、対応力、チームワークが必要になると感じました。入院が必要な人すべてを看るため、それぞれのスタッフが知識を出し合い、教えあい、未経験の対応を行っていました。首都圏では1時間以上もかけて他県へ受診することは多々ありますが、島の方は同じ県内でも「那覇へは行かない」と自分の地域で過ごすことを望む方が多い印象でした。島では「島内完結医療」という言葉があり、初めて聞く言葉で新鮮でした。そのためにはACP(Advance Care Planning=意思決定支援)が大切であると感じ、患者さんや家族との関係性づくりや、説明力が必要になると実感しました。今回のへき地支援で、改めて多くのことを学ばせていただきました。



内科病棟 本山 佳代



地域医療
振興協会

WebでCheck!



24時間365日断らない！ 地域の救急医療を支えるチーム力

救急外来には初療室・専用観察室があり、放射線室・内視鏡室も隣接しています。

3階フロアでは、手術室・集中治療室・血管造影室を有機的に集約。

年間1万台以上の救急車を受け入れながら、地域の救急医療を支えています。

※2023年9月より、救命救急センターに認定されました。



最新の設備と 質の高い医療で 心をこめたチーム力を発揮

手術室は、新しく良質な情報を素早く取り入れ、時代の変化に即応できるチームです。手術室看護師は医師やコメディカルと連携し、手術を安全に成功へ導く担い手の一員として自己研鑽も怠りません。チームの連帯感・達成感で手術室看護の質を担保し、24時間365日の手術受け入れて地域に貢献します。



手術室
吉田 知美



咲かせよう！
あなたのやる気



看護部ブログ
「救急医療」

血管造影室 内視鏡室

血管造影室も
内視鏡室も
24時間休まない！

救急外来は24時間、総合内科、循環器内科、心臓血管外科、脳神経外科、外科、整形外科、小児科など全ての科の初期診療を受け入れています。緊急カテーテルや内視鏡は救急外来看護師が対応するため、カテーテル治療や内視鏡などの幅広い知識と技術を習得できます。



手術室

手術室看護師として
外科系診療科の
手術をサポート

手術室は6室あり、24時間体制で様々な診療科に対応しているため、患者さんの疾患は多岐にわたります。入室される患者さんの年齢層が子どもから高齢者と幅広いこともあり、高い知識とスキルが求められます。



ICU/CCU/SCU HCU

チーム医療を
実践する環境が
整っています

救急外来からの緊急入院対応や術後患者対応などで活躍する集中治療部門(ICU/CCU/SCU・HCU)。ここでの看護は、集中治療医とコメディカルとともにチーム医療を実践。専門看護師を中心に、多職種カンファレンスやACPを通して学習できる環境が整っています。



ACP(Advance Care Planning)
人生の最終段階における医療・ケアに関する
本人による意思決定を支援するプロセスのこと

救急外来

救急からつながる
地域とのキズナ

救急において地域と連携し、当院に搬送された救急患者さんの他病院への搬送システムを確立しました。年齢・性別・来院理由に関わらず、診療受け入れを行っています。根拠に基づいてトリアージする力が求められ、救急救命士と協働しながら地域医療を支えています。



看護職継続教育



地域医療振興協会 Japan Association for Development of Community Medicine

地域医療振興協会の教育システムを共有

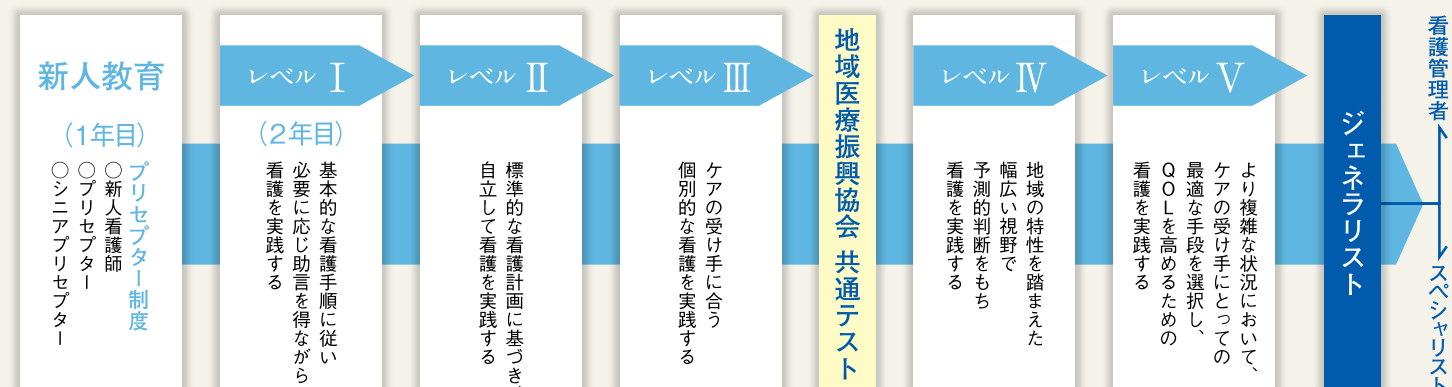
地域医療振興協会に所属する当院は、協会の有する様々な研修制度や設備を利用できます。看護・介護の実践的な勉強からリーダー教育、さらに最新の看護知識や技術、資格取得のための学習まで、本人の意欲に応じて研修会や勉強会への参加もバックアップします。

看護部の教育理念・方針

- 教育理念／地域の人々のライフサポーターとしての使命を果たせる人材の育成
- 教育方針／1. クリニカルラダーシステムを導入し、キャリア開発プログラムを展開することにより、質の高い看護が提供できる看護職を育成する。
- 2. 地域のニーズに対応できる専門的知識・技術を習得することにより、地域社会に貢献できる看護職を育成する。
- 3. 専門職業人として人間形成に努めると共に、自らキャリアをデザインすることができる看護職を育成する。

地域医療振興協会

共通クリニカルラダー／いつでも、どこでも、限られた資源の中で、自ら考え行動する看護師



高齢者を支えるために必要な コミュニケーション力を学び 「その人らしい人生」をサポート

当院は様々な疾患をもつ地域の高齢者を受け入れ、高度な医療を提供。
すべての看護師は「その人の人生に寄り添う」ための
専門的な知識とスキルを習得しながら、高齢者の急性期医療に取り組んでいます。



入院前から治療後を 見据え、退院調整と リハビリで回復を支援

予約入院では事前に情報収集がされているため、入院後すぐにケアが始まります。手術後や緊急入院で痛みがある方には、スタッフ同士がカンファレンスによって情報を共有し、より効果的なケアを検討します。患者さんのやる気を引き出し、回復が目に見えるところがやりがいです。

整形外科病棟
鈴木 里奈

入院による変化を最小限にする取り組み

病棟主任
豊島 優希

入院により生活は大きく変化し、不安や苦痛はせん妄を引き起こします。このため、早期に情報収集を行い患者・家族の意向を把握して対応できるよう、スタッフと共有。地域に精通した多職種チームで、入院中と同様のケアが他施設や自宅でも継続できるよう、詳細な情報を記載し、家族指導を行い「つながるケア」を心がけています。

患者さんの未来を見据えてケアを提供

病棟スタッフ(入職3年目看護師)
小川 莉加

COVID-19対応病棟で頑張っています。看護の中で、患者さんのできることが増えた瞬間や、患者さんから「ありがとう」の言葉をいただけることが何よりもうれしく、やりがいを感じます。PPE(Personal Protective Equipment)装着の大変さもありますが、患者さんの想いに寄り添い、信頼してもらえる看護師になりたいです。

様々な疾患から学べる充実した日々です

病棟スタッフ(新人看護師)
市川 璃子

複数の疾患を抱える高齢者を看護することに、入職当初は知識もスキルも未熟で戸惑うこともありました。そのような際にはプリセプターに相談して学習を進め、同期と語り合って乗り切りました。先輩のサポートを受けて夜勤も始まり、研修で自分の成長を実感できます。大変ですが、充実した1年になりそうです。

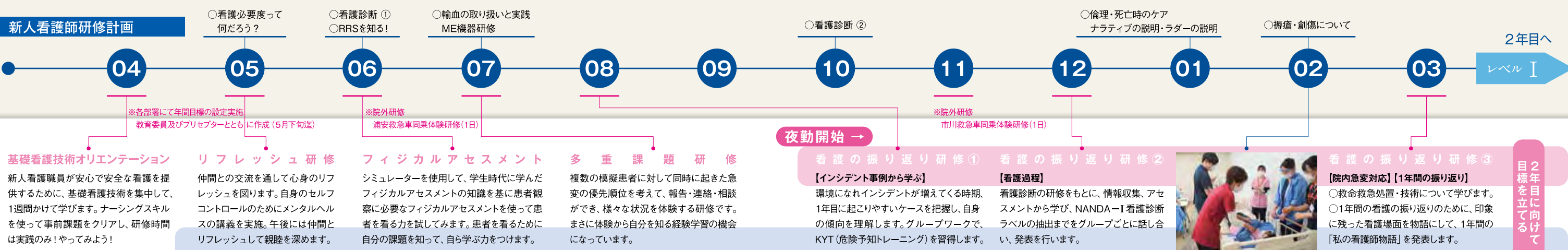


多職種チームで患者さんの 治療と生活を支えます

いろいろな職種のスタッフとの多職種連携

患者さんの回復を目指しスタッフ同士が協力してきた当院は、職員間の風通しも良く、職種を超えて連携する「チーム医療」を実践しています。各現場でのカンファレンスは多職種で情報を共有。時にはオンラインも活用して、異なる専門性の視点で検討し、患者さんにより良い治療と看護を提供しています。(写真は認知症ケアチーム)

新人看護師研修計画



OJT始動 →

2年目に向けて
目標を立てる



2年目に向けて
目標を立てる

外来と病棟との一元化を通して きめ細やかで安心感を与える継続看護を提供

当院では、外来と病棟の一元化を通して継続した看護を展開。

妊婦さんの希望を確認し、バースプランに活かして対応します。

地域における周産期医療の拠点として、女性のライフステージに寄り添い

リプロダクティブヘルスの視点で看護を提供しています。



LDR(エルディーアール)
陣痛(Labor)から、分娩(Delivery)、産後の回復(Recovery)
までを同じ部屋で過ごすお産の方法です。

咲かせよう!
あなたのやる気



看護部ブログ
「周産期医療」



若手助産師の成長の軌跡 ～お母さんと赤ちゃん 2人分の命を感じて～

産婦さんが健やかに出産に臨めるよう、先輩や医師と相談だけでなく、時には手を沿えてもらいながら分娩に臨んでいます。
10ヶ月間お腹で守ってきた赤ちゃんとお母さんが初めて対面する瞬間の感動は何事にも変え難く、その場に立ち会えることに助産師としてやりがいを感じます。

産科・婦人科病棟
助産師
古谷 優莉絵



妊婦さんのニーズに合わせた 母親学級を開催

Microsoft Teamsを導入しオンラインを活用して
新しい家族を迎える妊婦さんを支援しています

分娩だけではなく、妊婦さんが心身ともに健康で出産することを支援するのも、助産師の重要な役割です。当院では新型コロナウイルス感染症の拡大を契機にオンラインでの母親学級を開催し、多くの妊婦さんにご参加いただいています。今後も最新のコミュニケーションツールを活用し、場所を問わず、妊婦さんの望むところで助産師からのサポートを受けられるよう工夫していきます。

■ 婦人科

婦人科検診

入院治療
(腹腔鏡)

退院後の
支援

■ 産科

妊婦検診

助産師外来
(助産師指導)
(オンライン母親学級)
妊娠初期～妊娠後期

出産・分娩

すくすく相談室
(育児相談)

産後健診
(母子対象)

周産期医療の領域で成長できる2つのステージ

産科では助産師および助産師を目指す看護師が、正常な妊婦さんから中等度リスクまでを対応。助産師としてのキャリアを向上できる環境が整っています。また、婦人科では女性特有の疾患に関する周術期の看護を身につけることができます。



キャリア開発支援／研修制度



オフライン研修



地域医療振興協会のシミュレーションセンターも活用

当院の講堂やシミュレーションセンターを使用して、シミュレーターを使った技術演習やグループワークを中心にした集合研修など、多くの研修を実施しています。



オンライン研修



コロナ禍で導入したオンラインを研修でも活用

Microsoft Teamsを使って、オンラインで研修。「学習は止めない」をモットーに、タイムリーに研修を行っています。同時に大勢の研修生を受け入れることができるので、人数制限もなく実施できています。

フィジカルアセスメントアドバンスコース

患者さんの小さな変化を見逃さない体験

診療看護師(NP)による「急変させない患者観察」基礎コース。看護師として、フィジカルアセスメントをしっかりと行える思考と観察力を養います。

褥瘡ケア研修(基礎編・応用編)

成り立ちを知り予防するケアに活かす

最先端の褥瘡ケアを専門的知識・技術をもとに丁寧に学ぶことができます。当院の皮膚・排泄ケア認定看護師が講師として指導します。

臨床推論

患者さんの症状などから状態を把握

診療看護師(NP)による「急変させない患者観察」応用コース。臨床判断モデルを基に、医師の思考過程を知って、患者ケアに活かす能力を身につける研修です。

マネジメント研修

ツールを使って問題解決する力を育成

看護の質の向上に必要なマネジメント手法を学びます。当院では、SWOT分析を使って現状分析を行い、問題解決能力を養います。

臨床倫理

日常の倫理的課題を認識・分析・解決

ジョンソンの4分割法を用いて、臨床で起こり得る倫理的課題を整理します。グループワークでは、医師も一緒に研修に参加しながら共に学ぶことができます。

役割研修

新人を共育することで自らも成長

プリセプター・シニアプリセプターの役割として、新人教育を担います。教育手法や効率的で効果的な学修方法を学び、新人と共に成長します。

新生児から15歳までのすべての診療科で 成長・発達を妨げないようなケアを提供

内科・外科に限らず、すべての診療科を受け入れている小児領域。

病棟の看護師による外来担当、医療保育士やプレイルームの配置など、
お子さんやご家族に安心していただける環境で看護に取り組んでいます。



咲かせよう！
あなたのやる気



看護部ブログ
「小児医療」



子どもたちの笑顔が 小児科スタッフの エネルギー源

子どもたちが「痛い」や「いやだ」と感じる
ことや、ご家族が「つらい」と感じる入院生
活に、遊びを通して少しでも笑顔になれる
よう関わっています。子どもたちが笑顔で
過ごせるよう支援し、退院時に見せる子ど
もたちの笑顔が、私たちのエネルギーの源
です。



小児科病棟
大高 鈴音

小児科と産科の連携

小児科と産科は同じフロア
そのメリットを最大限に活かして
緊密な連携体制をとっています

定期的実施している周産期カンファレンスでは、
産婦人科・小児科医師だけでなく内科医師も加わ
り、リスクのある妊婦さんの情報を共有することで
常にサポートが必要になった事態に備えています。
ハイリスク分娩時には、小児科看護師も分娩に立
ち会い、誕生直後から看護を提供しています。



地域との連携

小児特有の
突発的な受診や
緊急入院にも対応

小児の特徴として急な発症で病状が変
化しやすく、家族の不安も測り知れませ
ん。そんな時、地域の開業医と連携し、
入院外来を問わず24時間速やかな診療
に対応しています。



ゼロ歳児から 高齢者まで

新生児から高齢者までの
すべての世代の方々に
寄り添って

すべての世代の人たちのライフサポ
ーターとしての役割を果たします。病気を
患ったときにいつでも、誰でも頼れる場
所であることを目指して、住み慣れた地域
で安心して生活ができるように、寄り添っ
ていきます。



チーム医療を支えるスペシャリストたち



専門看護師/認定看護師

当院では専門・認定看護師が複数活躍



専門看護師 急性・重症患者看護／鎌田 未来 老人看護／高橋 美帆
認定看護師 感染管理／中野 聖子・中野 朱美 皮膚・排泄ケア／水上 直子
認知症看護／藤原 恵子・西村 文恵



スペシャリスト

WebでCheck!



認知症ケアチーム

その人らしさを守るケアを目指して
入院すると誰もが不安を抱きます。特に高齢者や認知
症の方は入院が原因で混乱してしまい、心身へ悪影
響を及ぼしかねません。その影響を最小限にし、入院
前と変わらない状態で、安心して入院生活が送れるよ
う多職種で日々支援しています。

意思決定支援チーム

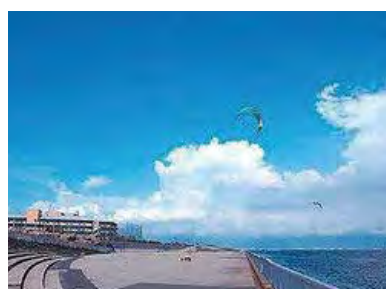
意思決定支援チームの看護師として
患者さんの価値観、今後の人生設計・目標などといった
お話をうかがうことが主な活動です。そのお話を参考
に、医師は治療方針を患者さんと共に考えています。
患者さんの意思を最期まで守り尊重する、という目標
を持って支援しています。



院内急変対応システム

RRS (Rapid Response System)
RRSとは、重症化する前に患者さんの「変化」に気付
き、対応するシステムです。スタッフは成人用と小児
用の基準を携帯し、懸念があれば起動することができ
ます。RRSにより患者さんの重症化を低減すること
を目指しています。

浦安



快適な住環境・浦安

都心に近く住みやすい街・浦安に、当院はあります。浦安と言えば東京ディズニーリゾートで有名ですが、他にも人気スポットが数多く点在しています。治安も良く、公園、スーパー、図書館なども充実。落ち着いて、快適に暮らせる綺麗な街です。



【看護部TOP】



TOKYO BAY
MEDICAL CENTER

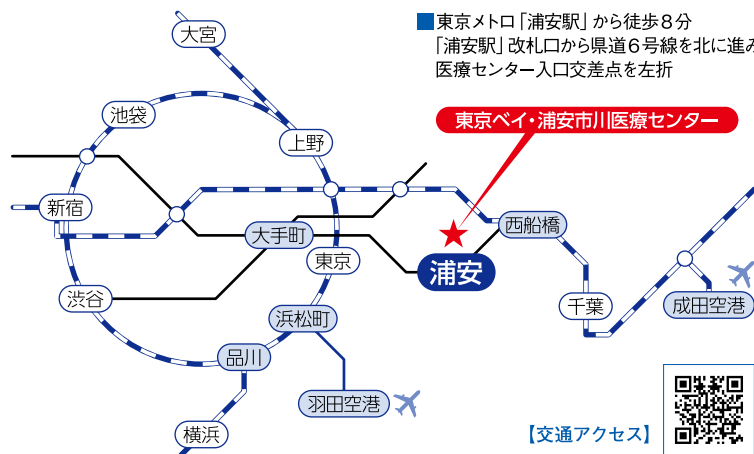
東京ベイ・浦安市川医療センター

採用担当／総務課 人事担当

〒279-0001 千葉県浦安市当代島3-4-32

TEL:047-351-3101(代表) FAX:047-352-6237

www.tokyobay-mc.jp



Work-life balance



充実した福利厚生制度

いま住んでいる場所からは遠くて通勤が大変という方や、地方から上京される方もご安心ください。病院から徒歩5分程度の近距離に、快適な住空間を完備した職員寮を用意。仕事と生活の両面で、しっかりサポートします。育児支援にも病院を挙げて力を尽くしています。産休・育休はもちろん、男性の育児休業取得も、推奨しています。病院から歩いて5分の「あおいぐま保育園」も用意しているので、パパママ看護師も安心です。

